



## 【別紙】

大分県 豊後高田市

人口 23,978人 総面積 206.6km<sup>2</sup>

### 視察事項

「学びの21世紀塾」を基軸にすえた豊後高田市学力向上のとりくみ

豊後高田市は「昭和のまち」による町おこしに取り組み、いままた「教育のまちづくり」として、子どもの学力・体力の向上を図るため、学びの21世紀塾をはじめ、市民ボランティアを活用した様々な事業に取り組んでいる。

豊後高田市の「教育のまちづくり」は、人口減少に歯止めをかける「定住策」としても位置付けられており、同じく人口減少傾向にある大牟田市にとっても注目すべき取り組みとして視察をおこなった。

### 「学びの21世紀塾」開塾の動機

平成14年度から完全学校週5日制の実施に伴い、行政（教育委員会）の責任として何かできないかという視点、子どもたちに21世紀をたくましく生き抜いてほしいという「教育のまちづくり」の2つの視点から「21世紀塾」をスタートさせた。

### 主な取り組み事業

#### いきいき土曜日事業

寺小屋講座、パソコン講座、幼・小・中土曜講座、中学校水曜講座（全中学校で毎週実施）中学3年夏季・冬季特別講座、幼稚園文字・英会話教室（週2日の出前授業、寺小屋昭和館・プラチナ館、テレビ寺小屋講座（小・中学生対象）

#### わくわく体験事業

#### のびのび放課後活動事業

「昭和のまちは教育のまちです」事業

例えば、寺小屋講座では、小学生向けの算数・そろばん・中学生向けの英語・数学・国語、幼稚園・小学生対象の英会話などがあり、夏休み・冬休みには、中学3年生向けの英語・数学・国語の特別講座を開講しており、これらの指導には教職員OBなどであたっている。

多様な事業の指導に、多くの市民・ボランティアが参加し、力を発揮していることがいきいきと報告された。

### 事業説明後の主な質疑応答

問 21世紀塾の取り組みの動機、課題は？

答 先人による学びの土壌が存在した。教育のまちづくり、3万人の人口を目標とする定住対策として取り組んだ。こころを豊かにするのが目的なので、学力偏重にならないように気を付けている。

問 講座を受け持つ市民講師の登録状況は？先生の参加は？

答 教職員のほとんどが参加している。市職員も30人～40人、全体として積極的に参加している。

問 成果をどう見ているか？事業の予算は？不登校の現状は？

答 一人ひとりの子どもの育ちがたくましく見えてきた。予算は、年間1,200万円、不登校の生徒は中学生が1名いる。他

#### 視察後の感想

全国に誇れる「教育のまちづくり」を目指した豊後高田市の取り組みは、学力の顕著な改善もあってNHKの情報番組で特集されるなど、注目を集めている。

全体として192事業もの取り組みを支えているのは、教職員や市民ボランティアである。教育委員会、教育長の説明では、市民全体の支援・支持を受けながら順調な成果を上げている様子が報告された。

もう一つの目的である定住策への効果は、今後の課題のようだ。多忙な業務のもとで多彩な事業を支えている教職員や市職員、市民ボランティアへの十分な配慮と将来を見据えた粘り強い取り組みが大切だと痛感した。

豊後高田市は、まちの宝である子どもたちに、自分で課題を見つけ、学ぶ力を付けて、豊かな人間に育ててほしいとの思いから「学びの21世紀塾」に取り組んでいることがよく理解できた。

大牟田市と共通の課題である人口減少に歯止めをかけるためにも、定住策の取り組みとしても重要な課題だと痛感した。

#### 視察事項

##### 子育て支援事業について

- ・子育て支援コーディネート事業
- ・子育て応援団「おひさまひろば」

大牟田市は、平成22年度決算で悲願であった財政黒字に転換した。行政も市民サービス向上の取り組みの目玉として、子どもの医療費助成の拡大、中学校完全給食の実現など、子育て支援策の充実に取り組み始めている。

多様な子育て支援の実践を学ぶ目的で、豊後高田市の子育て支援事業を視察した。

#### 事業の概要

平成15年10月 「子育て支援総合推進モデル事業プロジェクトチーム結成」  
1. いつでも、だれでも集える場所づくり

2. 子どもを気軽に預けられる体制づくり

3. 子育て支援関係の情報収集・発信

を目標に つどいの広場事業、 地域子育てサポート事業、 子育て支援総合コーディネート事業に取り組んできた。

平成16年4月 「子育て支援総合推進モデル市町村」に指定

平成16年6月 地域子育て支援拠点事業集いの広場「花っこルーム」開所（市直営）

平成17年7月 「出張花っこルーム」開始（2地区で月に1回ずつ）開催

平成19年4月 花っこルーム民間委託

平成22年4月 「出張花っこルーム」各地区週1回開催

平成22年6月 病後児保育事業開始

#### 主な取り組み

- ・「花っこルーム」の運営受託団体である、NPO法人 アンジュ・ママン設立経過、取り組みの説明を受ける「大分一の子育て支援を目指しています」
- ・花っこルームの平成22年度利用者数は、大人と子どもを合わせて13,557人、公民館での「出張花っこルーム」も週に1回開催し、喜ばれている。
- ・病後児保育事業として「花いろ」内に設置。看護師常駐体制、病気の回復期にある児童を一時的に預かる。市内居住者は、5時間で1,000円。NPO法人に委託運営。平成22年度の利用者数は24人。貴重な事業として評価されている。

#### 視察後の感想

- ・「花っこルーム」は、明るい施設環境でスタッフ20名が元気に仕事をしている。「出張花っこルーム」も地域で大切な役割を果たしていることが分かった。病後児保育は「花っこルーム」と同じ施設内にあり、清潔な印象を受けた。女性の看護師が専従配置され「母親から感謝されています」と感想を述べられた。豊後高田市は子どもの占める人口比が低く、それだけに子育て支援に対する熱意が感じられた。
- ・わが子のことで悩み、苦労した経験を持つ母親が中心となった子育て支援施設とスタッフなので、この施策の対象者の気持ちを我がことのように捉え、理解し、寄り添える事業内容となっていることに感銘を受けた。